

## 平成 31 年度国立大学法人等施設整備の方向性（案）

平成 30 年 月 日

## 1. 基本的な考え方

国立大学法人等は、創造性豊かな人材の養成、独創的・先端的な学術研究の推進、高度先端医療の提供等のための拠点として重要な役割を果たしており、その施設は、これらの活動の基盤を成すものである。

しかしながら、国立大学法人等施設は、老朽化により安全面、機能面に課題が生じていると同時に、交付事業財源が減少する状況の中で、老朽化の進行や保有面積の増加による維持管理経費の確保など、経営面においても大きな課題が生じている。

このような状況を踏まえ、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」(平成28年3月29日文科科学大臣決定、以下「5か年計画」という)に基づき施設整備を推進しているところである。しかしながら、厳しい財政状況の中で5か年計画が十分に進捗しているとは言い難い状況にある。

平成31年度の国立大学法人等の施設整備については、5か年計画に示された三つの重点整備及びその整備のための推進方策を踏まえた整備を以下のとおり推進する。

推進に当たっては、「**まち・ひと・しごと創生総合戦略2017改訂版**」(平成29年12月22日閣議決定)、「**第3期教育振興基本計画(答申)**」(平成30年3月8日中央教育審議会) 現在策定が進んでいる「**未来投資戦略2018**」、「**経済財政運営と改革の基本方針2018**」をはじめとした政策の動向、大学改革の状況等に留意する。

## &lt; 整備の方向性 &gt;

(1) 安全・安心な教育研究環境の基盤の整備

耐震対策(非構造部材を含む)や防災機能強化に配慮しつつ、長寿命化改修等を推進

老朽化した基幹設備(ライフライン)を計画的に更新

(2) 国立大学等の機能強化等への対応

老朽改修等にあわせ、機能強化に資する整備を実施

- ・ラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・スペース、**ICTの利活用を促進する施設基盤**など、教育の質的転換に資する施設整備
- ・多様な研究活動や産学連携に対応できるオープンラボ、**研究活動等を支えるICTの施設基盤**など、イノベーション創出に資する施設整備
- ・**大学の知を活用した地域産業の振興やそれら**を担う地域人材の育成など、地域と大学の連携強化に資する施設整備

附属病院施設については、事業の継続性を十分踏まえつつ整備を推進

(3) サステイナブル・キャンパスの形成

省エネルギー対策等によるサステイナブル・キャンパスの形成に向けた好循環を構築環境へ配慮した設備機器への更新により、エネルギー消費効率を改善

ネット・ゼロ・エネルギー・ビルなど社会の先導モデルとなる取組を推進

### < 施設管理運営の方向性 >

経営面での課題に対応するためには、維持管理コストの縮減相当費用等を良好な教育研究環境の確保や維持管理三つの重点整備に投資するなど、施設管理運営の好循環を目指す。

具体的には、インフラ長寿命化計画（個別施設計画）の早期策定、施設の集約化等による保有面積の削減等の総量の最適化や省エネルギー改修を含む老朽化対策による維持管理コストの削減、多様な財源を活用した施設整備に取組むなど、戦略的な施設マネジメントの取組を推進する。

## 2. 概算要求事業における評価について

- (1) 国立大学法人等の概算要求事業については、施設整備及び施設マネジメントに関する要求事業ごとの評価並びに、キャンパス整備の充実及び施設マネジメント等に関する全学的な取組についての評価を行い、総合的に事業効果が高いと見込まれる事業を優先的に支援することを基本とする。
- (2) また、病院事業については、先端医療・地域医療等に対応した教育・研究・診療機能と経営基盤の強化に資するため、(1)を踏まえた上で、各大学附属病院の特徴や地域特性を考慮し、医療等の変化に対応できる病院施設の整備を計画的かつ着実に推進する。
- (3) 上記(1)と(2)の具体的な評価方法については、別添に示す。
- (4) PFI事業については、別添の評価を踏まえた上で、「国立大学法人等におけるPFI事業の考え方」及び「PFI事業評価基準」に基づき、PFIに係る事項について評価する。

## 3. 概算要求事業及び予算案事業の選定について

国立大学法人等施設整備に関する検討会において、平成31年度概算要求事業の評価結果等に基づき、概算要求段階においては「平成31年度概算要求における事業選定の考え方」、予算編成段階においては「平成31年度予算案における事業選定の考え方」をそれぞれ決定する。両決定に基づき、予算の状況等を考慮の上、各段階において事業を選定する。

# カテゴリーと評価項目

別添

カテゴリー：(1)安全・基盤、(2)機能強化

個別評価項目：1.安全安心な教育環境基盤の整備、2.機能強化等への対応、  
3.サステイナブルキャンパスの形成、4.施設マネジメント

全体評価項目：1.キャンパスマスタープラン、2.施設マネジメント等に関する取組

評価の引継ぎ：以下については昨年度の評価結果を1年に限り引き継げる。

(1)安全・基盤の総合評価・S評価(耐震事業は総合評価・S又はA評価)のうち  
個別評価の4. 事業計画の適正性の評価がa評価のもの

(2)機能強化の2.a評価(他の項目は評価し改めて総合評価)

## (1) 安全・基盤

(対象事業)

耐震事業  
基幹・環境整備 など注

カテゴリー(2)に該当する機能強化を図る整備を併せて  
行う場合は、カテゴリー(2)に該当。

注：カテゴリー(2)に該当しない事業で、例えば、機能強化  
を図る整備を含まない食堂、体育館等の事業が考えられる。

## (2) 機能強化

(対象事業)

教育研究環境の改善  
病院の再生整備

「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」に示す機  
能強化に関する考え方や事例を踏まえた整備を行う事業が  
対象

1.安全安心な教育研究環境基盤の整備 [4点満点]

新增築の場合の評価を  
厳格化(4.と連動)

2.機能強化等への対応 [4.5点満点]

満点を加点等

3.サステイナブル・キャンパスの形成

[+1, ±0.3点満点]

満点の外数と  
して計上

環境対策工事項目数 or CO2削減量 [2点満点]  
耐震事業除く

環境対策工事項目数 or CO2削減量 [2点満点]

先導的モデル(ネットゼロ・エネルギー・ビル等の取組等) [+1, ±0]

4.施設マネジメント [4.5点満点]

事業計画の適正性 [3.2点満点]

事業計画の適正性 [3.2点満点]

満点を加点等

仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト [2点満点]

(1)の満点) (1)7点×2 = 14点

(2)14点

1.キャンパスマスタープランに関する取組 [+1, ±0, -1]

基本方針の検討状況、整備方針の検討状況、活用方針の検討状況、実現に向けた取組の状況、  
キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制

2.施設マネジメント等に関する取組 [+1, ±0, -1]

2-1 施設マネジメント及び適切な事業執行

施設マネジメントの推進のための仕組みの構築、施設の有効活用、適切な維持管理、適正な事業執行

2-2 サステイナブル・キャンパスの形成

全体評価(施設マネジメント等に関する取組)において評価

(1)(2)ともに 2点

個別評価

全体評価

総合評価	(1)安全・基盤		(2)機能強化 (全項目及び) [17.16点満点]
	主に耐震補強 <sup>1</sup> (1,4及び) [8.16点満点]	基幹・環境整備等 (1,3,4及び) [10.16点満点]	
S評価 <sup>2</sup>	6点以上	7点以上	13点以上
A評価	5点以上	6点以上	10点以上
B評価	3点以上	4点以上	8点以上
C評価	2点以下	3点以下	7点以下

「耐震補強」、「基幹・環境整備等」、「機能強化」の評価基準点を統一

1 耐震補強に伴って、効率的な事業執行の観点から、当該建物の供用に当たり必要な最低限度の改修(バリアフリー、外部改修のみ)を行う場合を含む。  
2 合計点がSとなる場合でも、個別評価の評価項目(3,4は除く)の中にcが含まれるときは、全体評価はAとする。

個別評価

評価項目	評価		
	a	b	c
<b>1. 安全安心な教育環境基盤の整備</b>			
安全・安心の確保の観点から緊急性があるか（改修・改築事業の場合）	緊急性が高い 【4点】	緊急性がある 【2点】	緊急性が低い 【0点】
<b>2. 機能強化等への対応</b>			
当該事業により見込まれる教育研究等への効果により、一層の活性化が図られ、成果が期待できるか	高く評価できる 【4 5点】	評価できる 【2 3点】	低評価 【0点】
	全てa	aとb、又は全てb	左記以外
必要性	高く評価できる	評価できる	低評価
実績・持続発展性	〃	〃	〃
<b>3. サステナブル・キャンパスの形成</b>			
3-1 当該事業の環境負荷低減のための取組について効果が明確かつ期待できるか	高く評価できる 【2点】	評価できる 【1点】	低評価 【0点】
3-2 先導的なモデルとして環境負荷低減が期待できるか	評価できる 【+1点】		低評価 【±0点】
<b>4. 施設マネジメント</b>			
4-1 事業計画が適正な内容となっているか <sup>1</sup>	高く評価できる 【2 3点】	評価できる 【2点】   【1点】	低評価 【0点】
	全てa	aとb   全てb	左記以外
事業規模等	高く評価できる	評価できる	低評価
事業費用	〃	〃	〃
4-2 施設マネジメントの取組が評価できるか	高く評価できる 【2点】	評価できる 【1点】	低評価 【0点】
	がb以上、かつ ~ の中でaが2つ以上	全てb以上（左記を除く）	左記以外
施設マネジメントに関する仕組み・体制の取組	高く評価できる	評価できる	低評価
施設の機能向上に関する取組（クオリティ）	〃	〃	〃
施設利用の効率化に係る点検・評価や有効活用に関する取組（スペース）	〃	〃	〃
多様な財源等の活用に関する取組（コスト）	〃	〃	〃

1 一事業の中に当該事業と関連のない施設・設備が混在している場合や、長期借入が可能な事業について長期借入金等の活用が検討されていない場合は、「4-1 事業計画の適正性」は「c」とする。

全体評価

評価項目	評価		
	全体項目a / 小項目	全体項目b / 小項目	全体項目c / 小項目
<b>1. キャンパスマスタープランに関する取組</b>			
アカデミックプランや経営戦略等を踏まえ、キャンパス整備の優先的課題を整理し、キャンパスの整備活用について必要な検討が成されているか	積極的な取組が行われている 【+1点】 が かつ ~ で が2つ以上 が かつ ~ で が1つ以上	一定の取組が行われている 【±0点】 左右以外	左記以外 【-1点】 が 又は ~ で が2つ以上
基本方針の検討状況	: 積極的な取組が行われている	: 一般的な取組が行われている	: 左記以外
整備方針の検討状況	"	"	"
活用方針の検討状況	"	"	"
実現に向けた取組の状況	"	"	"
キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制	"	"	"
<b>2. 施設マネジメント等に関する取組</b>			
	積極的な取組が行われている 【+1点】 及び が かつ その他で が1つ以上かつ 無し	一定の取組が行われている 【±0点】 左右以外	左記以外 【-1点】 が3つ以上
<b>2-1. 施設マネジメント及び適切な事業執行</b>			
施設マネジメント等に関する取組が行われているか			
施設マネジメントの推進のための仕組みの構築	: 一般的な取組に加え、特に優れた取組が行われている	: 一般的な取組が行われている	: 左記以外
施設の有効活用	"	"	"
適切な維持管理	"	"	"
適正な事業執行	: 優れた取組が行われている ( )が かつ ( )~( )で が3つ以上	維持管理に係る財源確保状況(実績)を新たに評価対象へ(定量的な評価指標の導入)。	: 左記以外 左記以外
(-)ダンピング防止対策の導入	-: 導入について学内規定等を定めている	全ての機関で既に組み込まれており、評価項目として不要となったため。	-: 左記以外
(-)入札・契約を監視する第三者機関の審議対象と議事の公表	-: 平成29年度に規程等に基づき、建設工事、設計コンサルティング業務を対象とした審議、議事の公表及び改善が適切に行われている。		-: 左記以外
( )補助事業の適正な予算執行	: 交付要綱に定められた事務手続きを遅延なく適正に行っている。		: 左記以外
( )補助事業の適正な予算執行のための体制構築	: 適正な予算執行に資する体制整備を行っている。		: 左記以外
( )補助事業の進捗管理	: 事業の進捗管理を徹底し、早期執行に努めている。		: 左記以外
( )補助事業の効率的な予算執行	: コスト縮減など効率的な予算執行に努めている。		: 左記以外
<b>2-2. サステナブル・キャンパスの形成</b>			
サステナブルキャンパスの形成への取組が行われているか	: 一般的な取組に加え、特に優れた取組が行われている	: 一般的な取組が行われている	: 左記以外

昨年度、( )全学的体制、( )PDCAサイクルによる取組の継続的改善と小項目毎評価していたが、より総合的に評価できるように変更

維持管理に係る財源確保状況(実績)を新たに評価対象へ(定量的な評価指標の導入)。

全ての機関で既に組み込まれており、評価項目として不要となったため。

大学全体での取組が主であることから、個別事業評価ではなく、施設マネジメント等に係る全体評価の中で評価。

# 「個別評価」の考え方

## 1. 安全安心な教育環境基盤の整備 [ a,b,c (3段階評価) ]

[評価の視点] 耐震性能、経年状況、事故歴等による ( **新增築の評価は4-1と連動** )

## 2. 機能強化等への対応 [ a,b,c (3段階評価) ]

必要性 [ a,b,c (3段階評価) ]

実績・持続発展性 [ a,b,c (3段階評価) ]

全てa

a評価  
(5点)

aとb、又は  
全てb

b評価  
(3点)

左記以外  
(cを有する)

c評価  
(0点)

[評価の視点] →後掲

## 3. サステイナブルキャンパスの形成 ( ネット・ゼロ・エネルギー・ビル の取組等の先導的モデル) [ a,c (2段階評価) ]

[評価の視点]

先導的モデル ( ネット・ゼロ・エネルギー・ビル 等) の取組状況

(評価できれば **総合評価の満点の外数として1点を加点**)

## 4. 施設マネジメント

4-1 事業計画の適正性 [ a,b+,b,c (4段階評価) ]  
事業規模等  
事業費用

全てa

a評価  
(3点)

aとb

b+評価  
(2点)

全てb

b評価  
(1点)

左記以外  
(cを有する)

c評価  
(0点)

4-2 仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト  
[ a,b,c (3段階評価) ]

施設マネジメントの仕組み・体制  
施設の機能向上 (クオリティ)  
施設の点検・評価や有効活用 (スペース)  
多様な財源等の活用 (コスト)

かb以上、  
かつ ~ の中で  
aが2つ以上

a評価  
(2点)

全てb以上  
(左記以外)

b評価  
(1点)

左記以外

c評価  
(0点)

[評価の視点]

### (4-1 事業規模等)

機能性・安全性の観点から、改修等の必要性が高い施設/基幹設備を対象としているか。  
(改築の場合、) 取壊し予定の建物が、改修では機能性・安全性の確保が困難な事情を有しているか。

(増築等の場合、) 狭隘化の状況のみならず、大学経営的な判断、取組 (財源見通し) が反映されているか。

(病院整備の場合、) 再開発整備計画や地域医療ニーズ等を踏まえた事業か。  
災害時等における医療機能の維持が可能であり、かつ適切な事業か。

### (4-1 事業費用)

事業規模当たりの費用が過大でないか。

### (4-2 仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト) →後掲

# 「全体評価」の考え方

## 1. キャンパスマスタープランに関する取組 [ a,b,c (3段階評価) ]

基本方針の検討状況 [ , , (3段階評価) ]

整備方針の検討状況 [ , , (3段階評価) ]

活用方針の検討状況 [ , , (3段階評価) ]

実現に向けた取組の状況 [ , , (3段階評価) ]

キャンパスマスタープランの策定と  
実現をになう体制 [ , , (3段階評価) ]

が かつ ~ で が2つ以上  
又は、  
が かつ ~ で が1つ以上

a評価 (+1点)

上下以外

b評価 (±0点)

が、  
又は  
~ で が2つ以上

c評価 (-1点)

### [評価の視点]

教育・研究機能、地域貢献等の観点から、必要な施設機能が明確になっているか。

整備方針が示され、部門別計画の過半が検討済みであるか。

活用方針が示され、部門別計画の過半が概ね検討済みであるか。

優先的課題について、行動計画(施設整備の年次計画、または、集約化や再配分等の年次計画)が作成されているか。

優先的課題に対して、多様な財源を活用し、大規模改修・改築、新增築・借用に取り組んでいるか。

## 2. 施設マネジメント等に関する取組 [ a,b,c (3段階評価) ]

### 2-1. 施設マネジメント及び適切な事業執行

施設マネジメントの推進のための仕組みの構築  
[ , , (3段階評価) ]

施設の有効活用 [ , , (3段階評価) ]

適切な維持管理 [ , , (3段階評価) ]

適正な事業執行 [ , (2段階評価) ]

全て  
が

及び が かつ  
その他で が1つ以上  
かつ 無し

a評価  
(+1点)

上下以外

b評価  
(±0点)

全て  
が

が3つ以上

c評価  
(-1点)

**2-2. サステナブル・キャンパスの形成**  
[ , , (3段階評価) ]

昨年の評価項目は「2-1の ~ 」のみ

### [評価の視点]

トップマネジメントとして、施設マネジメント推進のための仕組みが全学的に構築され、PDCAサイクル等による継続的に改善する取組がされているか。

既存スペースの有効活用のために、施設の利用状況などの実態を把握の上、把握状況の適正化のためのチェック体制が整っているなど、利用率の向上や利用ニーズの高いプロジェクトへの提供スペースを確保するなどの対策を講じているか。

個別施設毎の修繕計画(インフラ長寿命化計画(個別施設計画)等)を策定、または年度内に策定予定であるなど早期策定に向けた検討が十分に進捗しているとともに、必要な財源を確保し、計画的な修繕等がされているか。

補助事業に係る事務手続き及び予算執行等について、関係法令等に従い適切に行っているか。

省エネルギー対策等による光熱水費削減から得られた財源を、サステナブルキャンパスの形成へ投資し、好循環が形成されているか。

# 「個別評価 2. 機能強化等への対応」に関する評価の視点

## 基本的な考え方

「必要性」、「実績・持続発展性」のそれぞれについて評価

・高く評価できる取組：「a」 ・評価できる取組：「b」 ・低評価の取組：「c」

上記の評価を行った結果、全体評価を以下の通りとする。

- ・           が「ともにa」の場合は全体評価を「a」
- ・           が「aとb」又は「全てb」の場合は全体評価を「b」
- ・ 上記以外は全体評価を「c」

(注) の部分はできるだけ具体的な記述であること

本票及び下記 の資料を含め4枚以内でまとめること(附属病院の場合は本票を1枚以内(資料なし)でまとめること)

<p>本事業の重要性や教育研究内容及び大学改革との関連性など</p>	<p>教育研究の内容や魅力、国の政策や大学等の経営トップの将来ビジョン等を踏まえた本事業の重要性を具体的にわかりやすく、明確に記載。                  大学改革(中期目標中期計画、運営費交付金における3つの重点支援枠(地域のニーズに応える人材育成・研究を推進、分野毎に優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進、世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進)など)との関連性や、教育・研究・社会貢献上の位置づけを、具体的にわかりやすく、明確に記載。                  附属病院については、中期目標中期計画、政府の医療政策、新たな医療需要、地域性などを勘案した上で、地域間及び附属病院間ネットワークの中で、個々の附属病院における機能・役割を、教育、研究、診療、地域貢献・社会貢献、国際化の観点から記載。また、本事業により、当該機能・役割がどのように達成されるのかについて併記。</p>
<p>必要性</p>	<p>施設整備の必要性</p> <p>現状の課題を踏まえた施設整備の必要性について、具体的にわかりやすく、明確に記載。特に新增築の場合は理由がわかるように具体的に記載。                  建築的工夫や整備内容が具体的にわかるように、平面プランなど参考資料(A4ポンチ絵1枚程度)を添付。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該研究には <u>          </u>などの設備が必要とされるが、現在は <u>          </u>のような(スペース・構造上の)課題があり、 <u>          </u>のような整備が急務である。</li> <li>・ 本学の中期目標・計画を踏まえ、新たに <u>          </u>の取組を実施しているところ、ICT環境やアクティブラーニングスペースの整備等により、より <u>          </u>の教育活動を活性化していく必要がある。</li> <li>・ (外部パブリックスペースの例) 本学のキャンパスマスタープランの中で <u>          </u>施設を拠点とした <u>          </u>を形成する計画となっており、 <u>          </u>施設の <u>          </u>スペースと屋外の一体的な空間形成により、一層の <u>          </u>を推進し、教育研究活動の活性化を図っていく必要がある。</li> </ul>
<p>実績</p>	<p>本事業を要求する背景や必要性と関連する実績、及び本事業により目指す教育研究活動の実現性を図る上で参考となる実績を記載。各大学等の規模や特徴等を踏まえ、<u>アピールする観点が明確になるように留意</u>。                  (例：受賞歴、外部資金の獲得状況、論文、特許、共同研究・受託研究、地方自治体や民間企業等との協定締結や協力事例等)</p> <p>附属病院については、病床数(個室率を併記)、入院患者数、外来患者数、手術件数、医師(研修医数を含む)、治験件数などを記載。また、これらの将来予測数を併記。</p>
<p>実績・持続発展性</p>	<p>中長期的な教育研究活動の継続・発展に関する取組、社会との接点(地域、自治体、産業界など)を継続・発展させるための施設整備等による特徴や工夫を具体的にわかりやすく記載(地域、自治体、産業界については具体的な個別名称を記載すること)。特に新增築の場合は、<u>将来的な維持に要する財源の確保状況</u>など、確実な予防保全が可能であることも具体的に記載。                  附属病院については、入院患者数、外来患者数、手術件数などの増加や新たな医療需要への対応など、将来の変化に対応するための建築的工夫を具体的に記載。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>          </u>分野は今後 <u>          </u>年間の長期的視点で見ると <u>          </u>の観点から重要性がより増していくと考えられ、当該要求事業で施設やスペースを整備し、 <u>          </u>のように活用することで、 <u>          </u>の実績増加が見込め、持続的に <u>          </u>のような人材育成を強化できる。また、整備後の毎年の維持管理経費は <u>          </u>県や <u>          </u>が負担することとなっている。</li> <li>・ (外部パブリックスペースの例) 概算要求している <u>          </u>施設と一体的に整備する屋外パブリックスペースは、 <u>          </u>のような施設の特徴があり、人を呼び込む空間を形成する工夫(イベント、展示スペースなど)により異分野交流及び地域住民との交流を図ることで <u>          </u>市の <u>          </u>事業等の地域ニーズに対応するなど、地域・社会との連携を継続的に強化できる。</li> </ul>



### 基本的な考え方

要求事業に係る施設について、「仕組・体制」/「施設の機能向上」/「施設の有効活用」/「多様な財源等の活用」のそれぞれについて評価

- ・高く評価できる取組 : 「a」
- ・評価できる取組 : 「b」
- ・低評価の取組 : 「c」

「機能強化」事業のみ作成  
(「安全・基盤」事業は作成する必要なし)

上記の評価を行った結果、が「b」以上、かつ、 ~ のうち「a」が2個以上の場合、全体評価を「a」とする。「a」以外の事業で ~ 全てが「b」以上である場合は、全体評価を「b」とする。

なお、評価の際には、大学、教育研究、要求施設の特徴などを踏まえることとする。

「a」の例( の部分はできるだけ具体的な記述であること)

下記 から まで1枚以内でまとめること

施設マネジメントの仕組・体制に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求施設について、施設を利用する関係部局間で 委員会 (ワーキング等) を設置し、施設利用者の選定や機器の共用化などの規定を作成し、効率的な運用の体制を整えた。事業化については、 委員会において決定している。</li> <li>・整備後の教育研究等への効果について、 により把握することを想定しており、結果をフィードバックし教育研究環境の改善を図る仕組みを構築した。</li> </ul>
施設の機能向上に関する取組 (クオリティ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求施設について、諸室の再配置計画を検討し、研究室の集約化及び 実験室等については、リノベーションにより、フレキシブルな施設利用が可能なオープンラボ方式とした。</li> <li>・カリキュラムなどのソフト面、運営体制を構築し、学生の修学環境の向上を目的としたICT機器の導入を考慮したアクティブ・ラーニング・スペースを整備することとした。</li> </ul>
施設 <del>の</del> 利用の効率化に係る点検・評価や有効活用に関する取組 (スペース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求施設の改築整備に際して、老朽化した施設の点検・評価を行った上で必要な施設の集約化を行い、結果として m<sup>2</sup>の縮減を図った。</li> <li>・要求施設について、諸室の面積配分の見直しによる集約化、機器の共用化等により、複数の教員が必要に応じて柔軟に利用できる共同利用スペース m<sup>2</sup>を生み出すなど、稼働率向上(従前に比して稼働率 %向上)のための工夫を図った。</li> </ul>
多様な財源等の活用に関する取組 (コスト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求施設の 部分については、 %を企業からの寄付、 %を自己財源から充当し、整備の充実を図る。</li> <li>・要求事業に関して、外部資金を獲得する研究者が多い建物となることを考慮し、共同利用スペースにスペースチャージを行い、当該スペースの維持管理経費等に充当することとした(維持管理経費全体の % )。</li> <li>・改修によるランニングコスト削減見込額( 円)をもって、学内施設の維持管理費に充当し、予防保全を実践することを 委員会で決定した。 維持管理費の削減効果が見込まれる事業については、その削減額の推計値を具体的に記載すること。</li> </ul>

# カテゴリーと評価項目

修正反映版

カテゴリー：(1)安全・基盤、(2)機能強化

個別評価項目：1.安全安心な教育環境基盤の整備、2.機能強化等への対応、  
3.サステイナブルキャンパスの形成、4.施設マネジメント

全体評価項目：1.キャンパスマスタープラン、2.施設マネジメント等に関する取組

評価の引継ぎ：以下については昨年度の評価結果を1年に限り引き継げる。

(1)安全・基盤の総合評価・S評価(耐震事業は総合評価・S又はA評価)のうち  
個別評価の4. 事業計画の適正性の評価がa評価のもの

(2)機能強化の2.a評価(他の項目は評価し改めて総合評価)

## (1) 安全・基盤

(対象事業)

耐震事業  
基幹・環境整備 など注

カテゴリー(2)に該当する機能強化を図る整備を併せて  
行う場合は、カテゴリー(2)に該当。

注：カテゴリー(2)に該当しない事業で、例えば、機能強化  
を図る整備を含まない食堂、体育館等の事業が考えられる。

## (2) 機能強化

(対象事業)

教育研究環境の改善  
病院の再生整備

「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」に示す機  
能強化に関する考え方や事例を踏まえた整備を行う事業が  
対象

[4点満点]

1.安全安心な教育研究環境基盤の整備

[4点満点]

2.機能強化等への対応

[5点満点]

3.サステイナブル・キャンパスの形成 [外数]

先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル等の取組等) [+1, ±0]

[3点満点]

4.施設マネジメント

[5点満点]

事業計画の適正性 [3点満点]

事業計画の適正性 [3点満点]

仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト [2点満点]

( の満点) (1)7点×2 = 14点

(2)14点

1.キャンパスマスタープランに関する取組 [+1, ±0, -1]

基本方針の検討状況、整備方針の検討状況、活用方針の検討状況、実現に向けた取組の状況、  
キャンパスマスタープランの策定と実現を担う体制

2.施設マネジメント等に関する取組 [+1, ±0, -1]

2-1 施設マネジメント及び適切な事業執行

施設マネジメントの推進のための仕組みの構築、施設の有効活用、適切な維持管理、適正な事業執行

2-2 サステイナブル・キャンパスの形成

( の満点)

(1)(2)ともに 2点

総合  
評価

(1)安全・基盤(主に耐震補強<sup>1</sup>、基幹・環境整備等) < の1,4 及び >  
(2)機能強化< の全項目及び >  
[16点満点]

S評価<sup>2</sup>

13点以上

A評価

10点以上

B評価

8点以上

C評価

7点以下

1 耐震補強に伴って、効率的な事業執行の観点から、当該建物の供用に当たり必要な最低限度の改修(バリアフリー、外部改修のみ)を行う場合を含む。  
2 合計点がSとなる場合でも、 の個別評価の評価項目(3は除く)の中にcが含まれるときは、全体評価はAとする。

個別  
評価

全体  
評価

# 前年度評価を踏まえた平成31年度評価の見直し(案)について

## 個別評価

< 課題 >

### 3. サステイナブルキャンパスの形成

#### (1)環境対策工事項目数 or CO2削減量 [2点満点]

ほとんどの事業で何かしらの環境対策を実施しているため、aの割合が非常に多い。

#### (2)先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の取組等 [1点満点]

aの割合が非常に少ない。先導的な取組により追加的コストが生じる場合が多いため、aの増加は難しいのではないか。

< 見直し(案) >

3.(1)個別評価では評価せず、全体評価の施設マネジメントにおいて、大学全体のサステイナブルキャンパス形成への取組を評価

↑  
個別評価において、重視する点として、2.機能強化等への対応、4.施設マネジメントに加点

(2)評価の基準等は変更せず、+ の項目として満点の外数として計上

### 2. 機能強化等への対応

必要性 実績・持続発展性の記載が混在している事業が多い。  
大学等によって、記載や参考資料の量に差が大きい。

◆フォーマットや記載要領を見直すとともに、新たに枚数制限を設ける。

## 全体評価

### 1. キャンパスマスタープランに関する取組 [+1, ±0, -1点]

昨年度の低評価を受けて、評価内容の一部見直し、説明会での周知、記載要領の詳細化等を行ったが、本年度も大幅には評価は上がらず。

◆各大学等に詳細な評価結果等を伝え、助言等を行う。

◆記載が難しい点などについて、大学等へのヒアリングを踏まえ、記載要領に反映。説明会等を通じて周知。

評価基準等を以下のように見直す。

仕組みの構築の評価について、全学的体制は概ね構築されているため、継続的な改善等と総合的に評価

適切な維持管理の評価について、定性的評価に加え、維持管理の財源確保状況を定量的に評価

適正な事業執行の評価について、全ての機関で となった項目は評価対象からははずす。

サステイナブルキャンパス形成への取組を全体評価の中で新たに評価小項目の見直し等に伴い、全体項目の評価基準を変更

記載が難しい点などについて、大学等へのヒアリングを踏まえ、記載要領に反映。説明会等を通じて周知。

## 総合評価

◆個別評価と全体評価の点数のバランス等も考慮しつつ、総合評価・SABC評価の基準を見直す。保有施設の量の最適化を図る観点から、新増築の個別評価を厳格化する。